

新撰

江戸破子

五

卷之五

芝

西窪

安岩下

麻布

平尾

三田

二本榎

高輪

品川

元

大井池上

五

白銀

月見

磯谷

矢口

3228
5



凡4
3228
5

江戸砂子温故名跡誌卷之五

沾凉集纂緝

⑤ 豊嶋郡麻布領
比之 西窪 愛宕下

⑥ 同郡
麻布 平尾

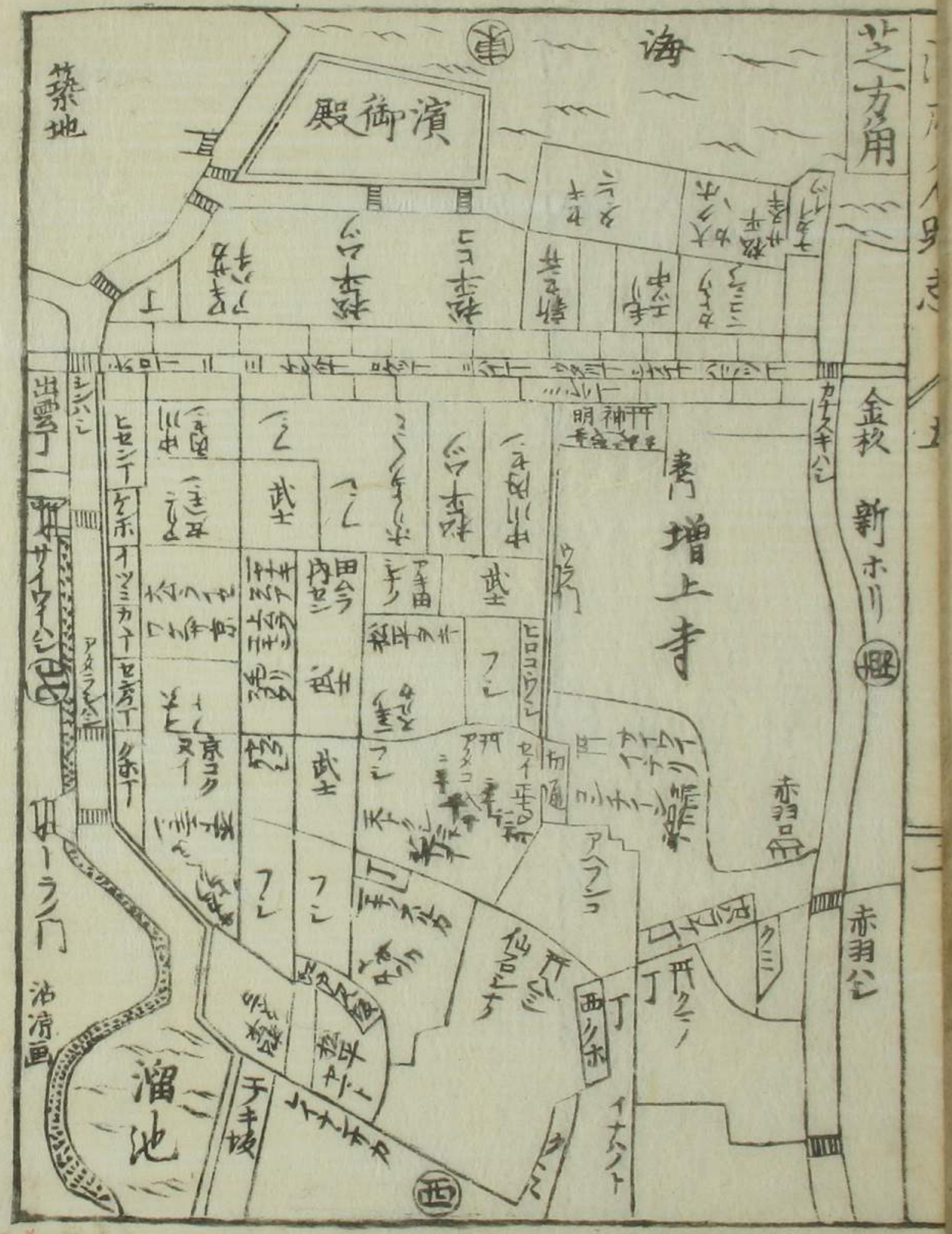
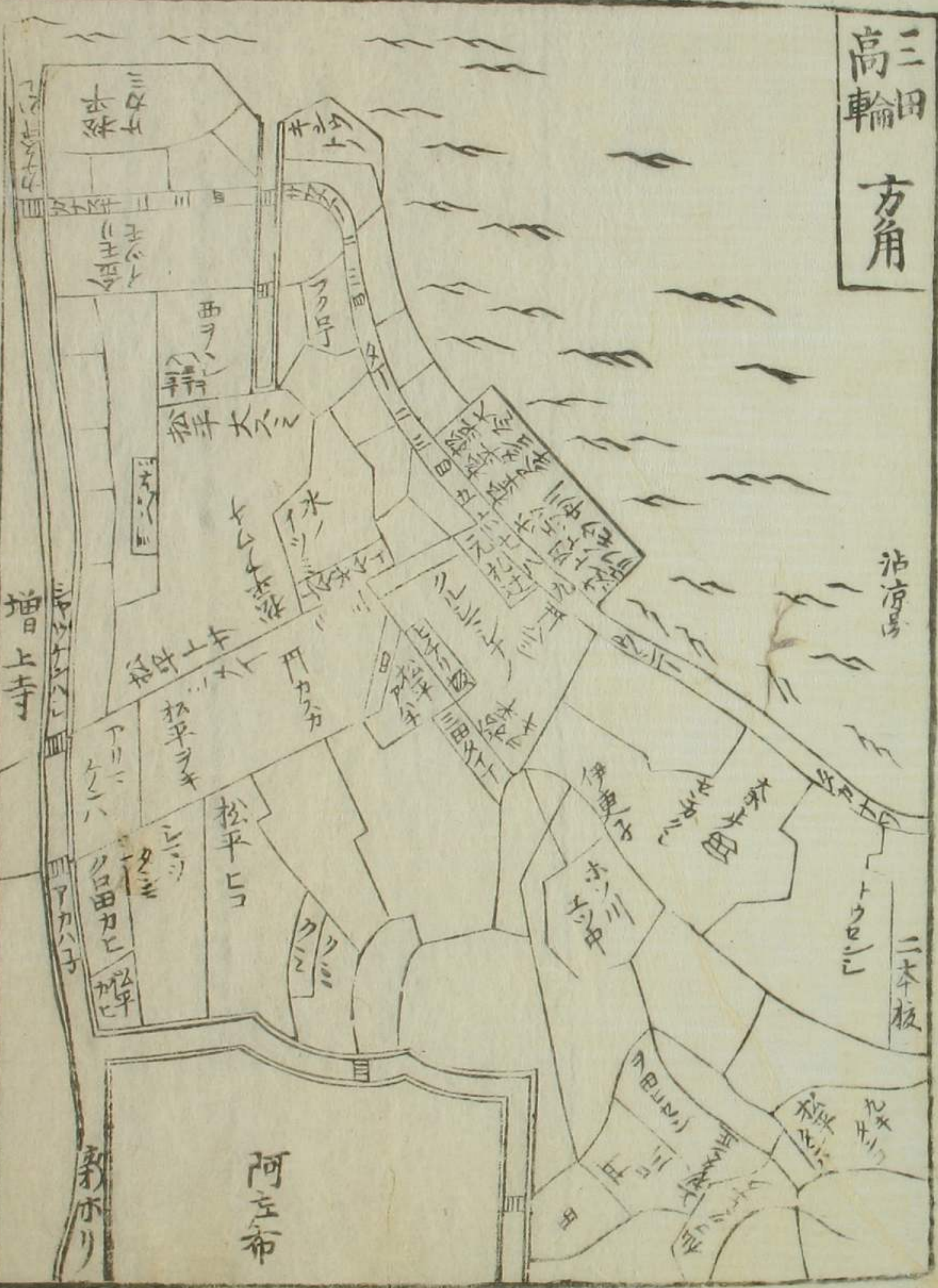
⑦ 荏原郡品川領
三田 二本掇 高輪

⑧ 同郡
品川 鈴森 大井 池上
馬込領

⑨ 同品川領
白金 馬込領
目黒 葛谷領
碑文谷 矢口

江戸名跡志 五





十五 芝 溜池 西窪 愛宕下

神明宮 伊勢大神宮御影遷

比日谷の月 神領十名

別當金剛院寶圓 神主 西東刑部 西東中務

内宮日本紀 垂仁天皇二十五年天照太神誨倭姫命曰是神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可憐國也欲君是國故隨太神教其祠立於伊勢國因興齋宮于五十鈴川上是謂磯宮則天照太神始自天降之處也前後略
外宮神皇正統記 雄略天皇二十一年丁巳冬十月伊勢皇大神教大倭姫命令迎豐受大神於丹波國與佐真井原大倭姫命奏之明年戊午秋九月差勅使奉迎之九月鎮坐于度會郡山田原新宮邇自垂仁帝御宇皇大神移五十鈴川宮而至此年既四百八十四年下略

當社彼倉神明宮ハ人皇六十六代一條院御宇寬仁二年九月十六日にありて即神幣と大牙一枚世々傳へ人皇中一む而して七歳をりとの呪女ありていづて當社は伊勢表宮ハ神としと遷宜ありしなり福屋なりと云ふものら而してを經て後多相院建久四年源頼朝天下御國那須中の養向の河形にありて宝鏡をかきぬ一千二百餘費ハ神田を寄附たりむむ神職轉をなすハ神主也也す一日くいふんから百四代後土御門院明應三年伊勢新九所氏茂相列小田原の城主大森実光を亡一國束子威を由るもの御高社の神位をいせぬるなりれり神教不傳と云ふことと修補する候もなり年月をあるは後正親所院天正年中に社社法ある終るを継ぎしを無一なり神の奇蹟附たりめ終るは後寛永十一年即信致しるす所修造を加へさせ給ひ社明のむりり和光ハ

月よりそくへ利物の神事さばりびやくむしりかかぬ
君社とくもりり△當社旧地いそおぼろ色小の神明と云ふし
△或人の云ふにびり宮舎ありその所より中へ建つるく
飯舎神明とらひ舊記曰宣化天皇爲民設于諸国
穀倉救洪旱と云ふ此穀倉の事かたへ

△生善市 毎年九月十五日より十六日までの祭にきつ
市の産 曲物の櫓 白 杵 木鉾 菓 土生善

此の器のとりその例かたへ
△合海山 青松ちのうらみのかたへ

○切通坂 坊寺と青松ちのうらみのかたへ
○幸橋荷 切通坂のうら 神生長岡作云

近き二十所の産土神と云ふ 青松ちのうらみのかたへ

○極川 芝岩の麓 青松寺前の流 宇内川よりく

びりさう向の極川多しと凡土記に記さるる極川の
流ありと云ふ川よりさしびり川の川なりと云ふ
船乗りにさし川をせとめく大泉の中へさしなる
大永四年小条氏綱と上杉朝興高輪とあゆて合戦の時
小条の勢を流谷よりありと云ふなり赤毛をさるる
上杉理をさるるなりとありと云ふ河内河内和泉寺流あり
そのら小条亡く其の流痕 江戸の所ありて下の長
なりと云ふと云ふ川所の名をさるる川民に和泉寺の流と
云ふその外さ田流痕なりと云ふなりと云ふ小条の家臣の流と
○新馬場 音松寺の門前より坊寺の裏門あり
此は江戸の大名の年々し享保の始は産少落子なる
○佐久間小路 魚房所が坊寺の裏門へ通し
此は江戸の大名の年々し享保の始は産少落子なる

○日比谷箱荷

芝草所の由

里談曰方治の頃此の金具を販賣する者日比谷と云ふ所の
或時之伏に於て甲の所の小いまを物ありとて山列の露
乃箱を添ふたりとて蓋を常の箱を添ふく信仰を
あつたの山伏をこゝかゝるものありて我が京都のもの
寂淨院とて之を當地に傳へしとて一木山伏を中へその
中中に箱をのけり此の箱をいつかゝるものありて當地に傳へし
蓋を他へかゝるは常の金をとてし明末の金具の
子孫を承けし告るまゝにむすの事ありに袋に金とて
去るを御奉行へんふまをて此の金具のありし
別々のものありしとてしを傳へしとて此の金をとて
子孫を承けしとて今に傳へしとて後影使のありし
萬帳のありしとて此の金をとてしを傳へしとて
日比谷とての産土神也 祭紀二月廿日

○芝橋

此南を日比谷と云ひ、わい新橋と云ひ、宝永の頃足利
のりく芝口御門と云ひの河芝口橋と改り日比谷を芝口所と云
回縁ありて見月今あり

○芝井所

じり市に芝居あり芝居所

○源助橋

じり市に源助橋あり源助橋

○長南橋

源助橋の流末海也 ○新法寺 増上寺に在り

○三好所

福徳信濃寺 大徳寺 福徳寺あり

○金松橋

新法寺あり ○牛尻 ○新網 今秋橋の下海也

○雑魚場

芝草所の店の海に漁所也

○麻島神社

本芝草所 兩社 別當和光山本竜院正福寺 天台

○御穂神社

日下西側

風土記 古老傳言昔有神女自天降來曝羽衣於松
枝漁人拾得而見之其輕軟不可言也所謂六銖

ありこれ清ら水の泉也なりと社を造すありし馬あは
社鳥のひらりらありたりてそとある一しものらら
所盤まはひらりて此世玄士のまじりたりし
ありて人のひらりたりし物中一しとありて
しなりし一明庵の四角くは平ら火の中にしての
その所より社を造すありし今よりありてま
なりしと

溜池

此世の朝ハ 釣合にありては列湖水の朝を
湖の朝ハひらりたり此世の朝ハ丸なり
つとて考工記 曰橋踏准化而為
○印の樓 溜池の北にあり
いし浅野幸長 釣合ありて
長考為長幸長の子孫なりしとありし
とめぬ主人幸長の公用のたまりし長幸長の子孫なりしとありし

樓を多く植りたりしは植て今二三株あり

○樓坂 院より麻布のまへ下り坂し大坂一株あり

○葵の園 右月不辻香下のもををては月麻布なり

○靈南坂 海堤のく人の坂し

是東條寺の靈南和尙は亦ありしとあり

○江戸見坂 日本橋中ち和ちなりしとありし

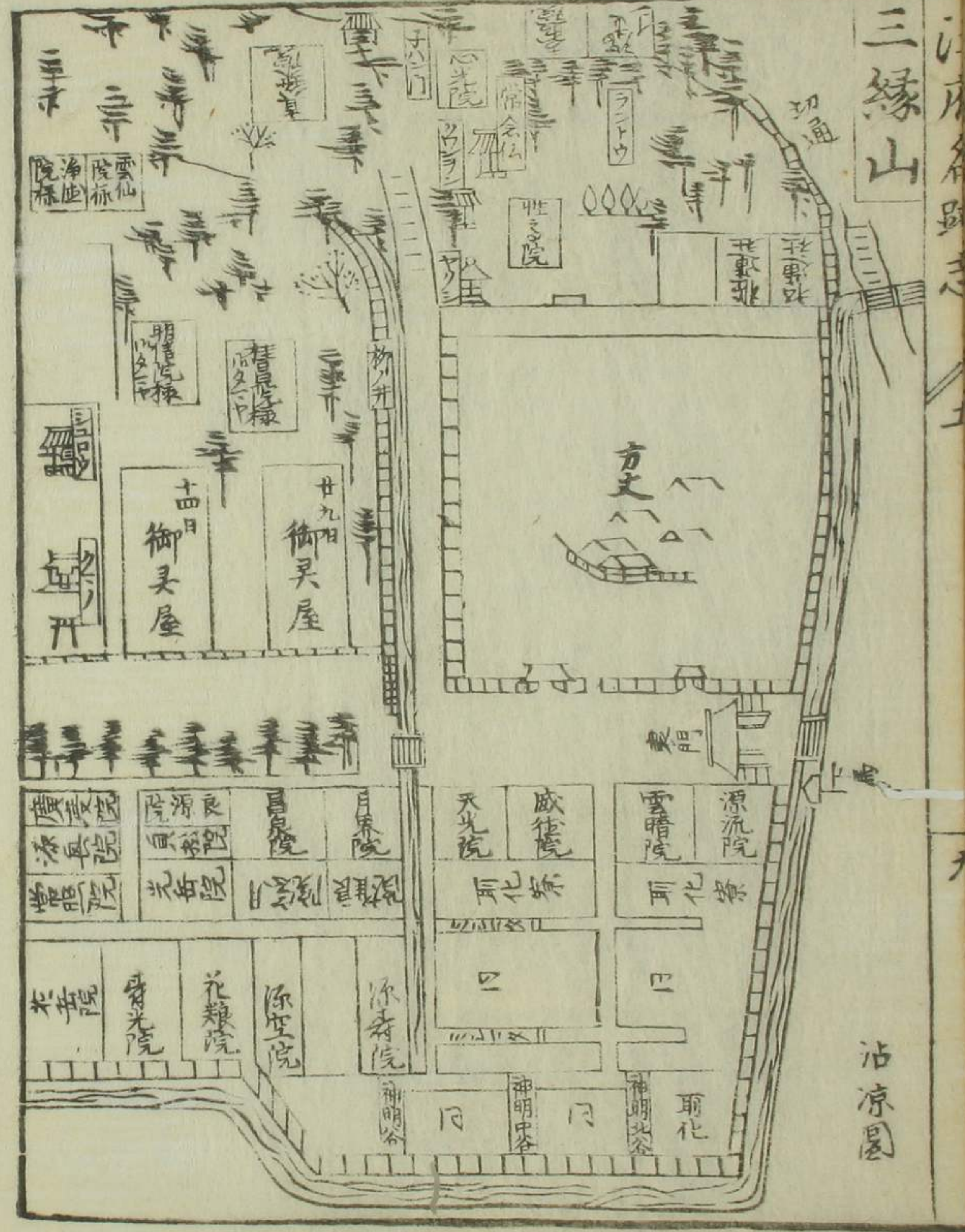
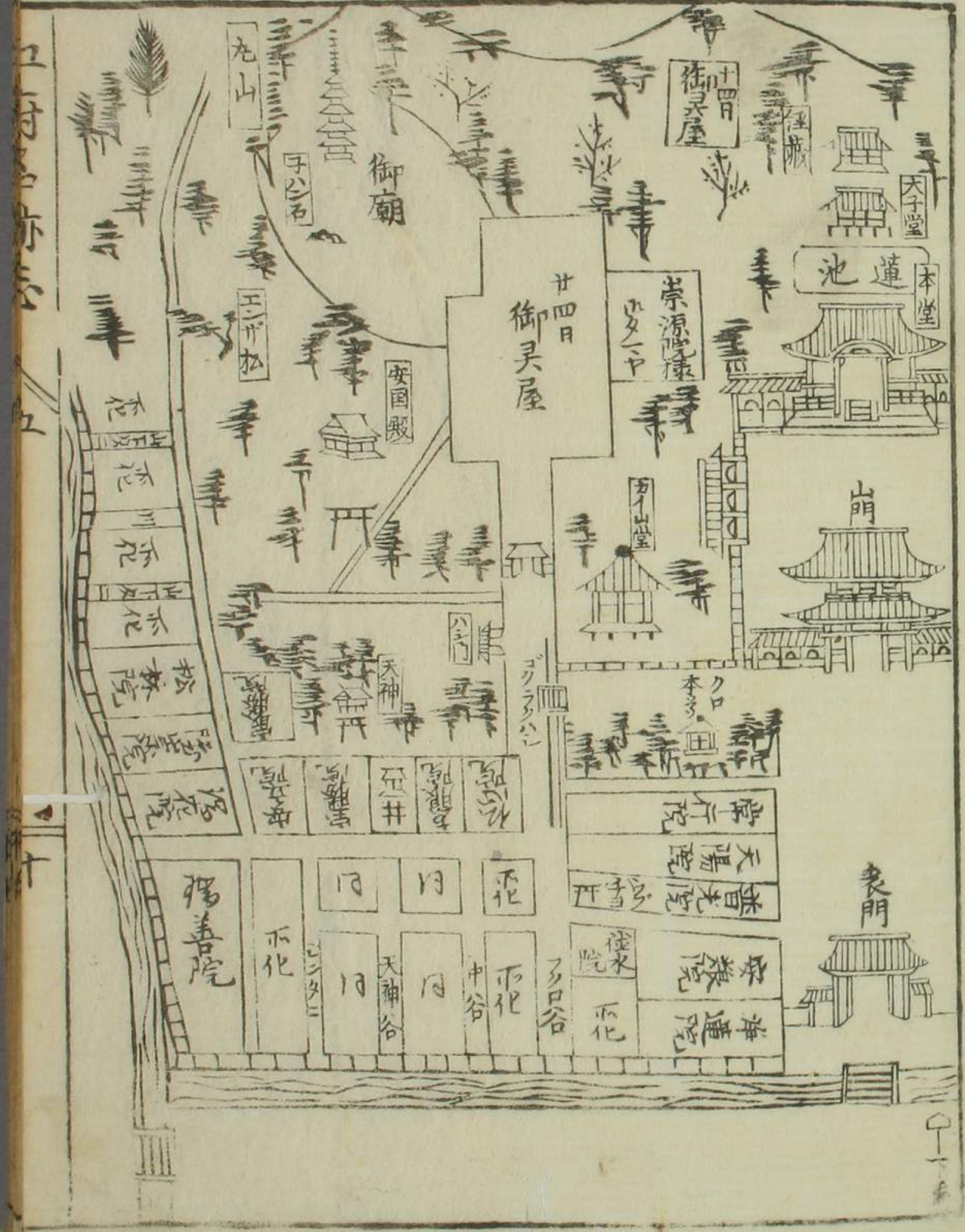
此坂より江戸中へ入るなりしとありし

西ノ水窪の方

○八幡宮 西久保 天台上野末 別當普門院

石清水勸請 一条院実弘年中の鎮座 寛永年中の御遷之也
毎年八月十五日放生會執行

△御蔵所 小山



○三縁山廣度院増上寺

芝檀林 寺領一万五百四十石

人皇百一代後小松院濟尊剱 用山大蓮社西譽上人聖聰大和尚

房主 中興用基貞蓮社源言上人存應和尚

本尊阿弥陀 惠心の作座像四尺 用東淨土於林惣本寺

本堂 東向 棟二十間 桷三十五間 現 大僧正學譽上人

山門 釈迦 文殊 普賢 十六羅漢八條

經堂 太子堂 用山堂 代上人の沙乳 十力丈

釣鐘 存り尺余あり高此堂のの大鐘なり

鎮守 惣野三下の社 △飯倉天神宮 別當宝勝院

安国殿 別當安之屋

墨本尊堂 毎月十七日用帳あり別當良雄院

御佛殿 廿四日 別當 惠服院 宝勝院

御佛殿 十四日 別當 真乘院 通玄院

御佛殿 廿九日 別當 増蓮院 学蓮社

崇深院極沙佛殿 別當 寂勝院 松蓮社

挂昌隆極沙佛殿 別當 佛心院 愷蓮社

△極沙佛 山門の右のち 修多羅の衣

△連池 本堂のくち 柳乃井 本堂の小手印塔のち

△系極 廿四日佛殿の衣 曼陀羅石 後々修多羅

△系極松 山下谷のち 園山 山下谷の西

△産産極斎 観智院 大消地藏 花岳院

△取化寮 三徳谷 南 日中谷 日北谷 袋谷
天神谷 中谷 南 新谷 山下谷 日中谷 日西谷
三彩谷

△濟常念佛吾石別當 惠照院

増上寺... 萬地... 中興... 由木... 天正... 八月... 聖十... 慶長... 昨... 吾... 二十... 増上... 昨... 聖... 同... 同... 元和...

十三世正... 市... 元和九年... 十四世... 崇源院... 豊御... 寛永九年... 万治二年... 定... 浄宗護国篇...

○光秀之和合院天德寺 知恩院末 六廣寺末 此六也 西栗

人皇百六代後奈良院天文二年辛卯創 知恩院名寺 第八号天知庵下

用山蓮社稱念上人與用基身十二世是譽上人

是谷者神皇上皇一ノ子大乃三ノ子也其孫行ノ子寺院ニ小

- 崇壽院 指取院 不形院 光惠院 淨徳院
- 宝智院 常立院 教文院 栄雨院 智相院
- 智雅院 智達院 和合院 長元院 竜興院
- 長谷院 淨昌院

寺中

○西谷山壽向院大難寺 知恩末 寺領寺末 日下

人皇百六代後湯成院慶長年中辛卯創

用山儀譽上人

本末之云慶元

壽向院

○田中山相福院西應寺 増上末 寺領寺末 本末

人皇九十九代後光嚴院應安元年辛卯創

用山有賢上人 中興者十六世存尚和尚

本末河内院 貞心院

△鎮守 正一位 船荷社

天正年中 台駕高乃子入法ノリノ用基は東田以尋ありて

沙奇所ノ一也之存尚和尚の時 釣合以あり一夏九旬の

干法幢をよと一而解人の可化を引ノ宗風ひ実深を三

三の爲者有爲の用基より三の三而余歳子及小徳心廣

△朝日山松 △常心寺松 △火除の松 ありては徳心は

塔頭 定林院 善受院 正定院

○演暢山法言寺 知恩末 本末 ○影向山西信寺 増末 本末

○彌瓊山宗光寺 日下 ○十劫山成覚寺 知恩末 田所

○紫雲山源光寺 日下 ○海見山智福寺 日下 日下

○ 禪宗

○ 一方山音松寺

曹洞宗江ノ子寺也

ありて

用山雲崗後法大和尚

之有の頂音松何事雲崗を始依し建之ありし中人のありと
寺是しハ崔四世ハ具極なり 天正のハ世世よりなる

塔院

清尾院

老壽院

信成院

妙意院

石口院

○ 勝林の金地院

五山僧録

寺願七百二

切通

用山大業和尚

大覚禪所流

元外京却南禪寺、金地院の嘉寺なり、
高寺塔院ハ元増上寺の寺のししハ後世の高寺の寺也

○ 金童山福徳寺

曹榮

西ノ系

○ 眞珠山実宝寺

曹栄寺本

ヨレ下

○ 東雲山青竜寺

日末

切通

○ 一向宗

○ 淨庵山澄泉寺

高田流

濁池

用山

塔院

芳名寺

正福寺

林松寺

○ 松林の安永寺

栗

芝金杖

○ 梅山光明寺

西末

西ノ下

寺中

淨系寺

日末

○ 長徳寺

日

中ノ下

○ 南江山鍾光寺

日

日末

○ 鞠勝寺

東末

芝

○ 安永寺

日

日中色

○ 鞠勝寺

東末

芝

○ 光永寺

東末

西ノ系

○ 光明の法泉寺

日

日末

○ 梅取山光寺

日

日末

○ 向陽寺

日

金杖

○ 常福寺

日

金杖

○ 存明寺

日

日末

○ 法会寺

日

日末

○ 法会寺

日

日末

○ 法花宗

○ 法聚山浄珠寺

身集

金杖

○ 妙光山浄寺

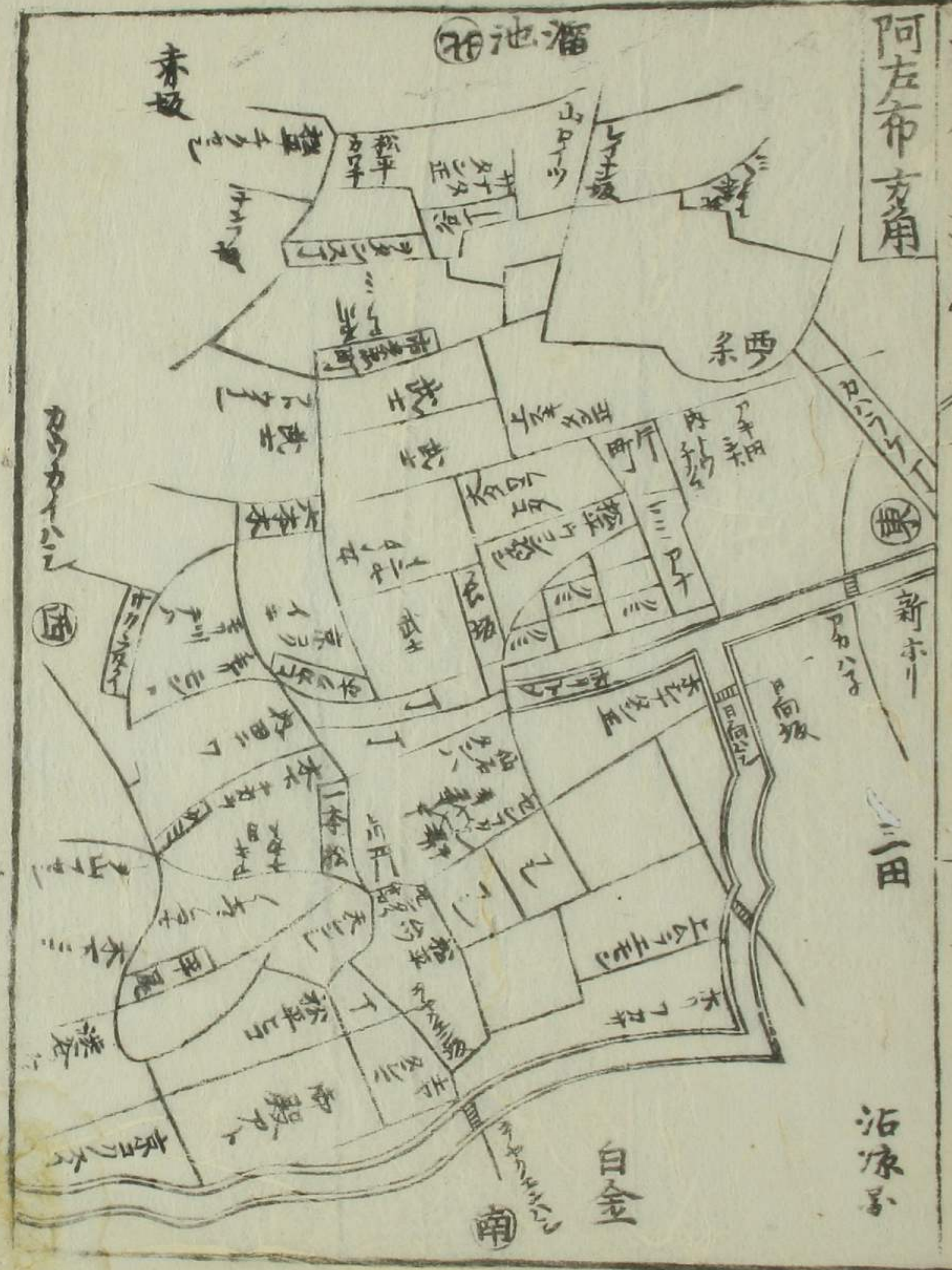
本寺末

飯々

江戸府志

二

二



十六 麻布 又阿左布と書 平尾

○阿左布 七村と云 龍王 採田 谷町 市 六分木
 上ノ所 雑色 赤坂 下ノ所
 ○幸谷 市 龍王 採田 谷町 市 六分木
 ○菽稻荷 市 龍王 採田 谷町 市 六分木
 ○五基山 不動院 真言 長谷小池坊末 門前 龍王 採田 谷町 市 六分木
 ○市 龍王 採田 谷町 市 六分木
 ○龍王 採田 谷町 市 六分木
 ○崇源院 採田 谷町 市 六分木
 ○谷町 市 六分木
 ○三ツ屋 谷町 市 六分木
 ○沼津 谷町 市 六分木

○編荷社 谷所の鎮あり 別當岸邸の森昌寺 三徳流

南社四世の海山よりその子神保の板介のありし

○観音堂 日下 徳宗 此の堂は永昌寺 三田 町にあり

○色井坂 長坂の町あり ○相生坂 一本松あり ○大黒坂 寺あり

○長坂 本町あり

○編荷社 長坂 根津引あり

○帷程丸 長坂のびりし 此の地は程丸と云ふ 寺あり

○日南窪 長坂の町あり 此の地は窪と云ふ 寺あり

○六女木 びりし 此の地は六女木と云ふ 寺あり

○採田 一名百姓所 六女木の西あり 此の地は採田と云ふ 寺あり

○霞の編荷 採田 天香 別當霞の観音院 上野末

○朝日観音 日下 浄土一向小三光院専称寺 和恩末

○同の院 天香の師あり 三光院清心は此の院の基あり

○子安宗師 日下 真言 瑞瑞の正光院 高野の正智院末

○一本松 一名冠の松と云ふ あり

大木の松より連をわたり天慶二年六孫王鍾基佐列平御門の
詔より入所し此の地を御龍川を越えて此の地にありしは西の
方より民衆列名あり其の御霊殿を木の葉に作りしは
この地の目録を麻の町と云ふなり 此の地の民衆は
親王院と云ふなり 今限若八幡東編寺のありし
又天正のころ姓如く女はねり呪喚し針をくらりあり

あまのまじりの松と云り△又小野の菅原のくらね松と云流る。

○粟飯山 日本 かの粟飯をまじりてしるりの名と云

○氷川社 麻布 真言 真福米 別当徳乗寺

あまのまじり松 (茶丸九月十七日)

○後懸松 麻布 ありて古言ほんりて尋ねるとあまの

右の人の云へ真言に古あかりのりかりしと云るも有りて今

尋ねるとあまのまじりて古言ほんりて尋ねるとあまの

もあま根より一丈と云りわけて根をりて 幹はまをりてん

○仏臺坂 松年法興寺ありてこの本

○鹿島石 若狭寺の下の田のまじり木の三つはあり

かゝるにゆりて四十年と云るもいふ所の法寺野の間に

○日向橋 新堂と云り ○日向坂 之田の下の坂

毛村日向寺ありてこの坂と云るもいふ所の法寺野の間に

○御殿田 之坂のまじり麻布の坂と云り今此寺と云り

○平尾 町人の此入組の村なり

○楢荷社 日本 まつり千歳寺の物

達々の紅葉あり根より三丈ほどにほりたるなりはまの

しともいふたきの枝をりてのりたりてかゝる如く本のまじりて

のまじりていふなりてのりたる木の根より一丈ほどにほり

いゆとありあまのまじりてのりたる木の根より一丈ほどにほり

○一 向 宗 佛 閣

○麻布山善福寺 西 汎 寺の十石 難色所

用と云海より人 執書上人の才より 當寺世法ありて

ある寺住古の天公の才よりて其のう海より人をして凡也而年余

乃古縁かりしを執書上人常陸の配よりて御系の時高寺

に到宿あり津長法師のしる海信一と云人の才より

かりて一向書念の所若かりて真言の法場ありて

○西福寺 旧末 旧 ○美堂寺 旧末 旧

○浄当寺 旧末 旧 ○法粮寺 旧末 中野

○西光寺 西末 谷所 ○雲岳寺 光照寺 旧末 長坂

○廣祿寺 旧末 長坂

○天台宗 佛閣

○七佛藥師 醫王山東福寺 上野末 西之の

高寺七佛や一信教大師の化すの中の一師たり存す方

二世より大師佛は以通のよ因東へなり所なり

此寺をもちりくくありをたしを田乃灌深く信

城中におくたかりししは信田よりしき後

宗源院様より建あり東敷とのよりし唐も信よりし

又自り入年し此寺よりし君信寺物法人の信よりし

○娘祐山正善寺 上野末 三ツ ○播谷寺 福寺 山末 三ツ

○法隆山千花寺 山末 三ツ

○浄土宗

○長安寺

○光明寺 深廣寺 増末 ちよ ○尺土山崇嚴寺 知恩末 ちよ

○遍照山光光寺 旧末 旧 ○信樂山教雲寺 旧末 旧

○長廣山教雲寺 旧末 旧 ○小涼山法光寺 旧末 ちよ

○淨真寺 正信寺 旧末 旧 ○西高山称念寺 旧末 新野

○松宮山志心寺 旧末 新野 ○清涼山住心院 旧末 新野

○光明寺 遍照寺 教雲末 旧 ○清性山善学寺 増末 ちよ

岡山誠蓮社證言主

岡山生養上人良至知尚

○禪宗

○日東山曹溪寺 妙心末 ちよ ○仙塔山春桃院 旧末 ちよ

寺中 慈眼菴 碧芦軒 寺中 自適菴

○娘院山宗宗寺 旧末 旧 ○竜廣寺 内沢寺 大徳寺末 旧

○光林寺 妙心末 乃上 ○法基天泉寺 甲列
 ○昌永之光雲寺 音榮 日 ○法忍寺 乃上

○法花宗

○高林の法興寺 小湊末 空 ○常陸山長權寺 身榮 乃上
 ○清徳寺 日末 日 ○松尾の妙経寺 日末 乃上
 ○日蓮の妙経寺 日末 乃上 ○明心寺 本願寺末 乃上
 ○日通の妙善寺 日末 日 ○法久の安金寺 本土寺末 乃上
 ○本樹の長壽寺 日末 日 ○今井の定隆寺 乃上 乃上
 ○廣義の法雲寺 乃上 乃上

十七 三田 二本榎 高輪

○窪三田八幡宮 窪三田 田町八幡の指

田町八幡の旧地、小祠あり、網の石塔あり、小祠の末に相殿あり、
 時代後、云々、至、古風なり、もの年号、月日、不詳也

○三田八幡宮 田町 別當 毗海山正量院

正保年中、高下、移、云々、神祇、後、邊の網、七、
 神、云々、田町九所、外、十二、町の、
 風土記 荏原郡 御田郷 或、箕多

三田 五十八束 三字田

所祭 應神天皇 武内宿禰 荒木田 襲津彦等也
 和同二年 己酉 八月十五日 始行神祀 乃上

前太平記 三田の基は六孫王經基東夷征伐の時出浪の邊にあり
後世細い高下の生となりて細生山當光寺とて一向の
寺也佳之田はあり里流よそは細い出生の地なり又經基
後世は本寺守に任りてあるなり一寺あり細い父は
免しりゆの源ありて出生しり

著聞集一綱 嵯峨源氏武藏守佐孫箕田亮子号源次
別當源敦為兼子稱渡邊氏

○細産湯の水 窪之田保科家の寺にあり

○細の川坂 日下 有る家の川の坂を云

○細の松 松平屋敷の寺あり

○細の塚 三田の運寺の境内にあり

○源の松 保科肥後守の寺にあり申せり
の田原にありて古きにありての松ありてありて
さくはくをたれり

○細生山當光寺 西末 寺中教如也 窪三田

ある細い出生の地なりと云り

○小山神明 飯倉神明の四世にあり

○四国町 三田町の内にあり

○春日神社 三田 別當三笠山神宮寺

和列三笠山神社 春日四所大明神者第一殿は武雷神第二
殿齋王命第三殿天津兒屋根命第四殿姫大神也
此社の人令六十二代村上帝天津羊中武藏の由司友東正房御
任命のりて後氏の宗廟なりはりてありてありてありてあり
りてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
か地併十一面觀音にありてありてありてありてありてありてあり
りてありてありてありてありてありてありてありてありてあり
○三田の墓 多田備仲真列責の所の墓にありてありてありてあり
不審満中乃關東征伐乃とありてありてありてありてありてあり

○三田の魚籃觀音

三田 津家 三田山魚籃寺

あるこの唐佛にして昔有開山法尊上人開國の時息女也
 其あり長壽の色よりありしをこもりおぼしめし
 佛放。面相唐女の如く大の法より藍魚の入るを持
 たり。天羽衣を物立係八九寸ありし員亨年中に此地
 ありそののの^{細柳}し常におぼしめし
 金舎檀の浦人漁なく能く一人乃
 英女籃魚の魚を入持ありて漁又の帆をひけし
 ことのい衣をあげ漁又とその天からに
 人のかしをまゝ女の曰い經を一目のけし
 觀音經をおぼしめし
 て婦人しをさめたりは先をまゝに
 法華經を授くはそやものなく馬郎といふもの
 一人ありては観音の經と書なりてありし

その後より大勢していの女死馬郎ありては
 を授けし一人の女をその女をそよ
 こと水死してその女を我にその女と
 して則つてその女を我にその女と
 嗚呼老翁かの女を觀音の化身し我に
 ほとひたりとせぬ馬郎は其の悟りし
 を授けしとてして魚籃の觀音と号す

觀音冥窟集

馬郎婦觀音ハ大唐ノ陝右ニ出現シ玉

へリ魚籃觀音ハ本説ヲ見ズ疑ラクハ靈照女ノ
 像ノ藍ヲ持セルヲ諺テ魚籃觀音ト号スルカ

馬郎婦ト魚籃ハ一ナラカ 下略
 ○樂師堂 伊四子 福昌寺

智沈大師の作 性古の種念にありし品川沙飯とありしは世に

○聖天宮 法興山多門寺 天台 上野末 三田

浅草今と毫山の西と大寺といはれ月日何れと云

○地藏堂 就善峰山中道寺 口 口末 口末

○護諸童子 醫王山妙巖寺 口 口末 口末

○二田川 馬場より南に流るる

○元札辻 田所一平目の三辻にびびりし寺あり此橋あり今い

牛所といわり ○伊更子 牛所のくしあり前の教を授け

○聖坂 二田川より馬場へ上る坂を云

○洞塚 西宮寺の塚にありと傳のまじりし寺あり

○龜塚 日寺にありしを云ふる寺あり 龜井塚といふ寺あり

唐申を傳ふといはれ法にあり 唐塚を云ふ所あり 龜井塚といふ寺あり

○月の岬 東に絶りあり いきよこの内

○高輪 上ノ下あり 小川まきく河川所より来る海

房經のくち出ありて眺る ○牛町 江戸府車借の牛宿あり

○大佛 歸命山架来寺大日院 天台 上野末 三田

洞の本食但唱の自作し 實、水十二年、起立

石、仁王一丈六尺あり、今地蔵者あり毛彫のくち彫るづ先

まり、地蔵の石像に仁王地蔵と云ふ、但唱の作なり

此但唱の振列多田の産よりて有馬の茶原の寺あり云

○彌荷社 上る輪 別當大空院

○太子堂 旭曜山常照寺 天台 上野末 上る輪

十六歳の所、新沙自作し ○彌荷社 土堂のくちあり

○庚申堂 青面金剛氏ありのくちに三宇並ぶて立

○高山彌荷 下る輪 天台宗 安泰寺無事

○禪宗佛閣

○太平山大中寺

下野富田の宿寺

住持三田

用山牧菴和尚

曹洞宗関東僧祿三々寺の内なり

○竜溪山源昌寺

青板末

○慈眼寺

八三山 天谷末

三田

○松久寺

○高峰山南基寺

真如末 日下

○梅岩山正山寺

○天昌山清久寺

東泉末 日下

○虎嶽山常林寺

下谷天隆寺末

日下

用山

虎嶽山の観心戒律院

○竜谷山功運寺

三列竜門寺末

三田ひら

用山黙室天圓和尚 無天叟慶存和尚用基 担任 運主

定會 寺の格は独祀也

寺中 大林院 明徳院 福院 石化寮

△徳地あり △泉源あり △寺あり △碑あり

○瑞雲山竜翔寺 放生

三田

○泉谷山大勢寺

保善末 寺倫

水月觀音安置

○保安寺

一ノノラ 寺末 日下

○平田山正光院

日末

○永壽山国昌寺

山門 寺末 日下

○雨室山菱梅院

保善末

示板

○廣法山久福寺

大申末 日下

○齋王山廣岳院

永慶末

日末

○桃源山仙翁寺

吉祥末 三田

高寺の西ノ産番神あり 正保年中一ヶ所あり

○宗清寺

片巻末 日下

○万松山泉岳寺

大中寺末

曹洞宗江戸三寺の内

三田

用山門菴宗関和尚

ひしひと阿左布の甚しかり正保年中一ヶ所あり 此の寺は淺野家の菩提所なり 永長大石氏を以て先 世十七人義士なる塔あり 捷ありてみづろ子人を合尾南の 隅にその頂の住僧の立石の碑あり 併の音趣を記す

○佛日山東禪寺 妙心末 濟康江戸三ヶ寺の角 三田
 用山靈南和尚八日向依肥の人守永成し又海觀音に於て生誕して
 ひしひの河原布の基にあり実永羊中一は女まゝり

○淨土宗

○蓋吹彌陀 三木山春林寺 三田 大樹寺末 三田
その傍春日の作
 ○茨器文松寺 増末 三田 ○宝徳山大信寺 妙心末 三田
 ○乾海寺 日 日 ○金沢山後寺 日 日
 ○貞林寺 日 日 ○三田山淨閑寺 日 日
 ○林泉寺 日 日 ○寂照山実相寺 日 日
 ○月照山祿渡寺 日 日 ○觀佛山長安寺 日 日
 ○正泉寺 日 日 ○月香実基院 日 三田
 ○池室山大増寺 日 日 ○本近山及性寺 日 日

○元照山常光寺 増末 下高橋 ○金糸清林寺 智泉末 二田
 ○深湯山永信寺 日 二田 ○凡光山光真寺 香泉末 二田
 ○永昌山竜原寺 日 三田 ○海峰山相福寺 西泉末 日
 用山岌蓮社寂養上人 寺中 蓮葉院
 ○周光山濟海寺 知泉末 妙所 性古ハ竹栄寺ト云リ
 用山法養上人念茲和尚 △目當の焼明 そろ方六ヶ余
 沖より船尚寺の焼明を因あてりて入津中白しけ
 基より本房と添眼下にありて佳景の地也高寺と云

○法花宗

○長久寺 身築 窪苗 ○妙莊山某主寺 小湊末 三田
 ○榮松山長運寺 日 三田 ○光秀山蓮葉寺 日 日
 ○常祐山浄法寺 中末 日 ○芳荷山長安寺 本國寺末 三田
 ○長祐山兼教寺 三田 ○廣布山実榮寺 小湊末 日

○一向宗

- 常教寺 西末 三田 ○西蓮寺 東末 三田
- 日照山空徳寺 日 三田 ○神足寺 日 三田
- 正源寺 日 三田 ○莊嚴寺 日 三田
- 徳明寺 日 三田 ○徳玄寺 日 三田
- 徳成寺 日 三田 ○心海寺 日 三田
- 宝徳寺 日 三田 ○延立寺 西末 三田

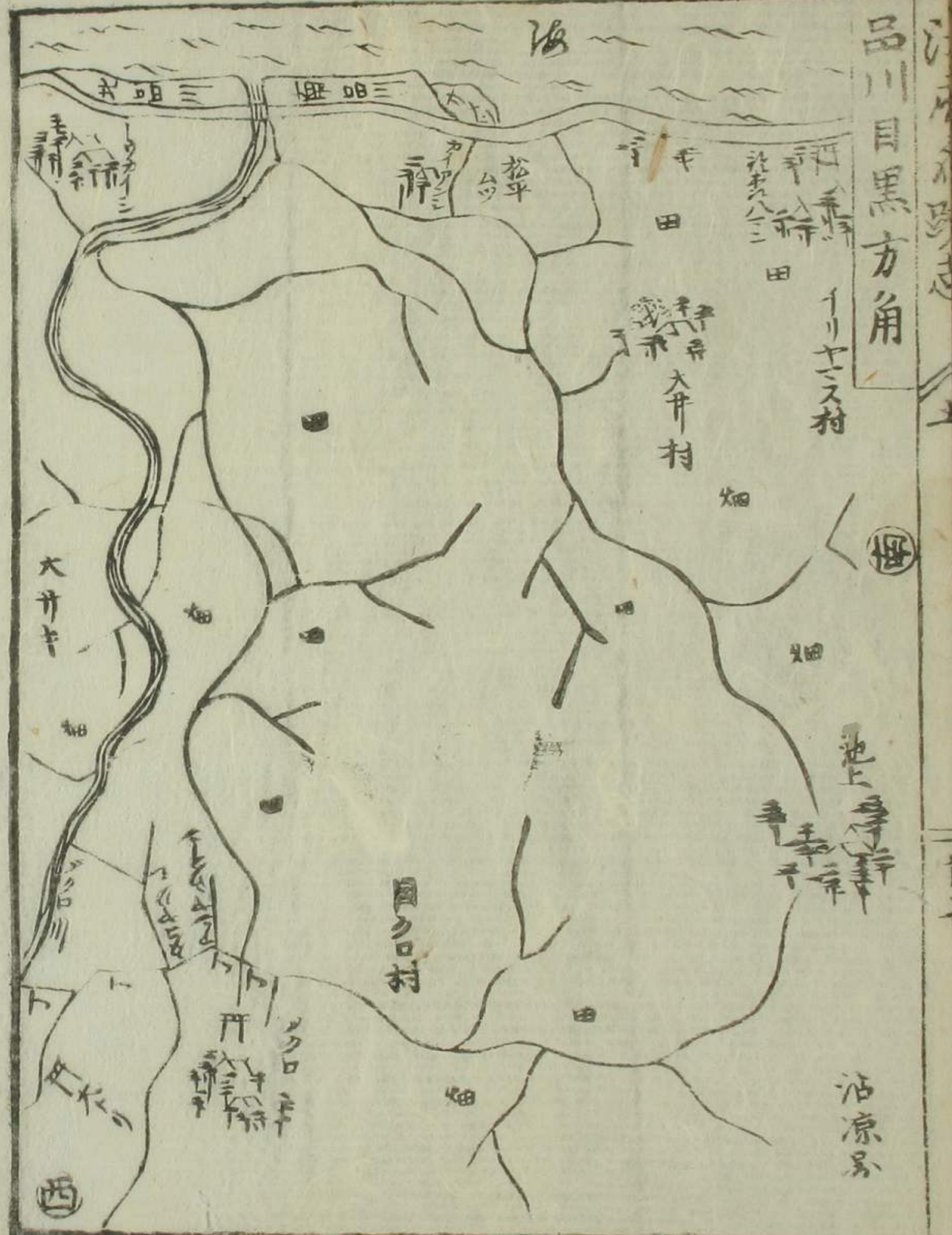
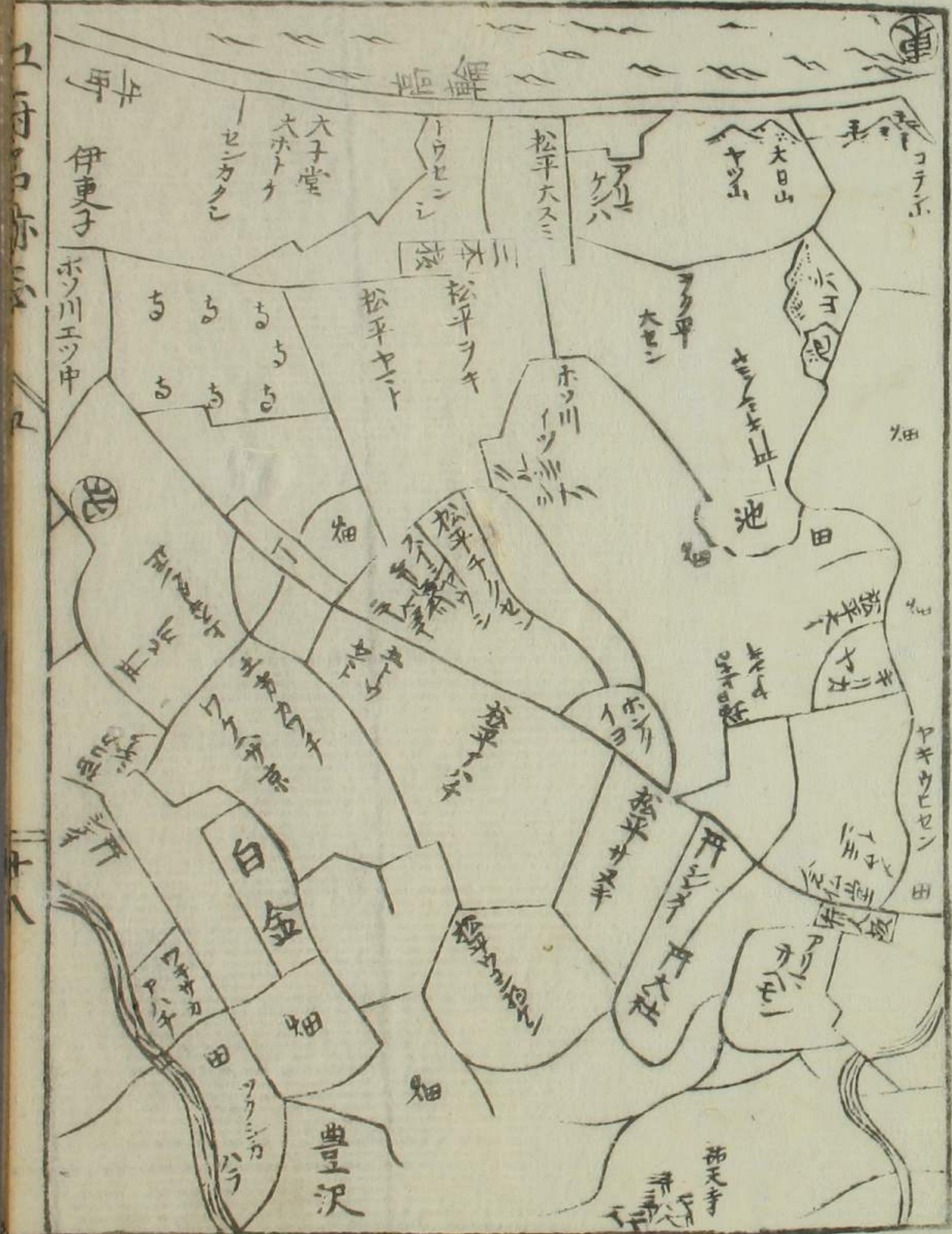
○天台宗

- 滝高山玉泉寺 上野末 三田 ○廣布山火樂寺 上野末 三田
- 外張山幸福寺 日 三田 ○菴滝山西藏院 日 三田

○真言宗

- 高野寺正輪番 紀列高野山宿寺 二本
- 本堂弘法大師四十二歳法自心の沙弥 古義一流解頭
- 佛祖統記 弘法大師、佐伯氏田公男母、阿刀氏小字、貴物名空海
- 兼和二年三月廿一日入定高野山、歳六十二
- △三輪松 坊内

- 大聖院 真福末 三田 ○竜淵山宝生寺 香福末 三田
- 齋王山家福院 日 三田 ○大元山長延寺 後坊末 三田
- 佛乘院 日 三田 ○伍大山明主院 心末 三田
- 朝光山真秀院 日 三田 ○
- 薬師堂 瑞臨光山遍照寺 三田
- 弘法大師、開基、本寺、弘法大師の心



品川 鈴森 大井 池上

○品川 東海江岸修馬船し江戸より三里南北に持九千石の場

○貴船大明神 神領五下 神主 鈴木采女

相殿 神明 天王 南品川の産土神

考 天王浅草の... 六月七日祇園の奉祀ありて依てなり

○稻荷大明神 神領五下 神主 後五傳下 小泉出雲守

相殿 神明 天王 神木松 古本、田原、枯て推本あり

祭礼 六月七日 南小、友社、日し中の稲、いゝ友社の神輿

ひあひしてまじりし

東海寺の徳ありし所建ちの社、小品川の産土神

○御獸社 南品川 ○稻荷社 南品川 ○寄木大明神 洲邊

○稻荷社 品川入口通とある、い社、山にありし、今もいづく

○ハッ山 又大目山と云 多輪より入口

ひい石の出備、ハッありし、又八人のちあ、さあ

○御殿山 品川の、東海寺に隣る

大田道真居住の地と云ふ、小泉、東の、江岸、御殿場の

○連理の枝 品川の、あり、友の、と、古希子に記

○撞鐘の松 品川の、あり、増上寺の撞鐘を記

○光明石 品川の、あり、古希子に記、その、不詳

○行合の橋 中の稲の、し、南小の、神輿、祭礼の、時、に、橋、を

○震橋 品川の、あり、居木村、あり、橋

○震の松 赤川より池と云り下なるあり

ひねたまふれとてうごころれと幹枝葉ともゆくし

○鯨頭明神 さくの海もあり 今砂水とす

ひし世傳へ文子傳る鯨あぐる漁師もこれを新して

きうそのおろしけもこ標を石たさよとて浦へまかの

鯨のこころをとりてその鯨の尻をゆきまつて鯨頭明神

といふとすしゝるゝあめをんりの比とすあまともよ

○朝比奈彦補 赤川 松平安藤彦左下すとの不

朝比奈彦補 義秀のやゝのたたりとす

○朝比奈井 赤川 池ありいゝとひらうさゆりころり

しとすき事一千丈余ありこれより一瀨もなすとも

○太刀合の橋 ぬまの川より

朝比奈彦補 ぬまの川より

○荒城乃松 ぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

ぬまの川乃松ありぬまの川より

○萬松山東海寺

大徳寺流

寺領五百石

品川

洞山宗彭澤菴和尚 賜号天應大現国師 寛永十五年起立

洞山和尚の祖列出石の生三浦介平義明の末葉秋庭調典の

子なり師は大徳寺春屋国師し後一凍沼満和尚の才より

△正保二酉十二月十一日葬春秋七十三

△沃菴の御札 同年の夏一園相を畫く自一黙を下す

式人北沙氣を誅して

沃菴の沙氣は凡そ一天下東海なるかきこころぬ

△洞山廟所 大徳寺をひききこのまにけして三つかこて

銘文をかきく品のふたりをわかの遺言なり

實なる頃 沃菴 玉室 江戸 三徳もいひあわした遷り

於その中に江戸和智の子細ありしをあらう沃菴なる

洞山形玉室和尚の真列 棚倉へなぐる其法印の遺書

江戸みそくわいせりし一寺のひみそ守沙鉢の江戸

ぬまの川乃松ありぬまの川より

化し

△沃菴番 和尚寺院遺之ありて好ましくはむし一の重と
 たりしとて寺門を出て船に舟を又遊まんとす依て船中
 百姓に別れて友人のりて舟の目所て番つてありし
 和尚遷化の後きれしとてひる人なくまきり好ま
 しくありしありしを願ふの事ありしとて寺に書と勤
 今ハ遊人もありしとて寺に書と勤しとて寺に書と勤
 里詠よとて寺に書と勤しとて寺に書と勤しとて寺に書と勤
 旧言今にのりて其のりて寺に書と勤しとて寺に書と勤
 乃やれとて今にのりて寺に書と勤しとて寺に書と勤
 △一カ羊石 在る泉の川にあり 泉の泉所成の時石
 沖と見たりしにけふとてぬれぬれとてぬれぬれとてぬれぬれ
 以居れ者たりしとて寺に書と勤しとて寺に書と勤しとて寺に書と勤
 △紅葉 瑞雲寺の紅葉ありしとて寺に書と勤しとて寺に書と勤
 △是政塚 かのゆり権又命の墳し



△沃菴漬 今ハ府中沃菴の香物け和尚の漬けありし
 或人むめををかくせりし
 じりす一むめををかくせりし
 又きり酒十里酒と瑞雲寺の酒ありし
 十里と二五里とありしとて寺に書と勤しとて寺に書と勤しとて寺に書と勤

- | | | | | | | | | |
|------------|---------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 當山十境 | 湖音閣 | 浴鳳池 | 泰竜井 | 釣玄室 | 千歳杉 | 塔頭 | 雲竜院 | 勝幢院 |
| 山々類大明院様法華堂 | 寛永の願沙水石 | 同所茶の水 | 同所茶の水 | 同所茶の水 | 同所名 | 瑞泉院 | 真珠院 | 清光院 |
| 一切経藏 | 慈蔭塔 | 詔夢樓 | 要津橋 | 一万羊石 | 前二池 | 少林院 | 長松院 | 泰定院 |
| | 用山卯塔 | 経法 | 南門ノ橋 | | | 戒解院 | 高深院 | 白雲庵 |
| | | | | | | 玄性院 | 定惠院 | 慈雲庵 |
| | | | | | | 法雲院 | 瑞光院 | 春雨庵 |

○福壽山階徳寺 建長寺末寺 寺凡十石 山

○瑞鶴山定宝殿寺 本 法住末末 泉

本末 太田左衛門建三 乳像あり 泉

○瑞雲山天竜寺 後列大正寺末 泉

○瑞雲山大竜寺 黄蘗末 山

○補陀山海晏寺 三田功運寺末 山

△觀頭觀音 大敵のくしの中より知るる其佛しと云

高寺、紅糸のふ新なり、本堂のくしと云、一面の紅葉

の大ふり、林のくし、紅葉のくし、紅葉のくし、紅葉のくし

のくし、下谷正徳寺、目連王院、高寺、紅葉のくし、紅葉のくし

と云、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし

門前、東海、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし

山、水、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし

○浄土宗 山

○院成の形所寺 増上末 寺中 龍性院 正文院

高寺、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし、くし

○江量山法蓮寺 山 山

○法花宗 山

○鳳凰山妙国寺 岡山天目寺 寺凡三石 妙国寺 福山

○鍾王山本覚寺 山 山

○宝光山本覚寺 山 山

○一向宗 山

○心海寺 西末 山

○天台宗 山

○熊野山常沙三昧寺 山 山

岡山、山、山、山、山、山、山、山、山、山、山

○時宗

赤川

○恭教山長住寺 寺址不詳 相列殿以清浄光と名

○深廣山海藏寺 日未 ○善福寺 日未

三ヶ寺ととに一遍二代上人住持臨終真教上人の用基と

○真言宗

日未

門前う観音堂茶の茶室と云

○水月観音

海照山品川寺善門院

東三室院未

赤川

用之権大僧都弘尊法印兼應元平基創

本寺の法法大師の持佛 同淳檀金の聖觀音海中出生の傳し
大師回向のつれ武列住系の押原段品川氏河某子所せし
との家より入て品川左系免らる事せつころの應永年中
強念持成云と秋禪多とけく品の品川の一族付た
この御本寺の堂より一屋より太田大金吾住持持資
赤川を所と持資よりけ傳を信し一年と建すすとの後

長流元持資入道通灌のの御よりある所の法種舎とありて
と秋定ふらありよりなる事と秋定ふらありて同永長とあり
これに徳法持寺破滅はかり永祿十二年小田原の北条
甲列玄田とありし中にも玄田玄房のゆかりにありし
赤川を追捕し赤川大寺寺のけかきとの堂をとりし神
社御園のつれありし住僧法師おとく言たり
その御本寺の玄田家ありしもの若大觀ねれしといふ我
赤列赤川大寺寺のものしすりする元の御よりありし
ししとありしと秋定なる事とのありしを記すありし
のを合甲列ありしものありしとありしとありしとありし
本寺よりありしものありしとありしとありしとありし
しとありしとありしとありしとありしとありしとありし
五月申すは印権大僧都弘尊の堂塔御造ありしとあり
高きもの利生は石月乃水庵ありしとありしとありし
いんく水月観音とありしとありしとありしとありしとありし

六地藏一番

赤川正元坊建立

○鈴森八幡宮 一名盤井神社 引高八幡宮密教院

○列男の神社 天正年中鎮座 神主 森田舎人

○龍石 尚社あり大サニ尺さうりけり色青布一他乃

遠遊紀行 此社舊有二石轉之則其聲如鈴

吾妻紀行 乃りありありの事なり此の森あり入るや

池といふ猶もれを中にいふ事執りて入るや

沖の島居 老干沖中に尚社の名井ありいそ極金鹿園

の島井の敷ひかりの事も境地に漁獵禁められし

は場をのそきて網をふる漁師甚ういふあり

あまをなかく託して書をいひし

○荒藪崎 龍の森の強し武蔵の森ありなるあり

もあらくくせり

續後集 白波のわいの後をたねかゝぬとの人をつきた

○大井 江戸より二里半 村より六百石余の大村し

は里より向東西福寺と云あり境内に今井あり

くして尺より尺半あり

○大井の橋 日向西光寺あり一向宗 西末

本堂のそりも橋あり枝六七石あり

本なりし老本も今も枝あり

○不承村 大井の色 在名一々下村あり

○長栄山本門寺 直奉寺 千束郷池上 百三三

用山日蓮聖人 用基日朗上人 當時住持

人堂九代後身多院以安年中起立

祖師入葬葬祀地し

日朗起立の大寺云々

長栄山本門寺 是し 三長三本と謂ふ

本堂祖師の所創日法上人の住祖師在當時

長栄山本門寺 是し 三長三本と謂ふ

本堂祖師の所創日法上人の住祖師在當時

長栄山本門寺 是し 三長三本と謂ふ

注法華經 祖師主筆に自注を一一く經の中にも入りの

才子禮那の遺物自筆の帳

身延山才子中論番持自筆の帳

自筆の消息ありし 上人百名の教書

肉背の書 千人在世の時ぬきし書ありし

紫色の石 其書ふら後 貞宗の太刀

おのゝ山との什物をり

祖師堂 長宗の 寺の寺 此の親の直徳寺の筆し

當山の地は因東番通の棟梁中宗の宗仲よりわりの住居
地ありしと祖上人の居別小湊の寺よりして此寺の住居の
所より居別より種々ありしと云ひしと云ふ所ありし世の
宗仲よりありしと云ふ宗仲よりありしと云ふ所ありし世の
地の景を尺の寸心我に述べてしと云ふ所ありしと云ふ身延より

下ふゝと云ふよりより宗仲よりありしと云ふ所ありしと云ふ
寺よりありしと云ふ大坊よりありしと云ふ所ありしと云ふ

大坊の祖師入寂の世宗仲住下地し日澄上人の寺より

南坊の 日照上人の寺 照宗院の 日照上人の寺

是藏坊の 日澄上人の寺より 日照の寺より

寺院

照宗院 是藏坊 九条院 妙宗院 中通院 本覚院

分房院 安立院 普賢院 妙法院 善徳院 大善坊

正教坊 妙遠坊 本藏坊 宝平坊 蓮光坊 妙寺坊

遠宗坊 妙宗坊 本林寺 大林寺 普濟寺 林昌寺

本徳寺 妙宗寺 本林寺 妙淨寺 本住寺 長照寺

妙光寺 正教寺 本光寺 本覚寺 長宗寺 淨心寺

千束池 日澄上人の寺より 長宗の寺よりありし
日蓮の腰掛松 妙宗の池よりありしと云ふ所ありしと云ふ

丸 白銀 目黒 碑文谷 矢口

○氷川社 別當徳業寺 真言 真福寺末

白金の産土神なり 祭紀九月十七日

○鷲森神明宮 別當法音寺 真言 天台 山王城跡末

此をを治る神とし 神木板 祭紀五月廿八日

○高野寺在番二箇寺 白銀谷 ○支下箱荷 神主

本堂弘法大師尊像 上中下三村あり 用く百姓入領あり

○豊沢 上中下三村あり 用く百姓入領あり

○土筆ヶ原 上中下三村あり 用く百姓入領あり

○今里 白銀村の北なり 白銀村に九八石あり

○六軒茶屋 白銀村の北なり 白銀村に九八石あり

○観音堂 真言 光雲寺 同所

○樹木谷 川西の地獄と云ふも 斬罪場と云ふと云ふ

○誕生八幡宮 永諱山高福院 真言 高野末

○三宝塚 ○土造塚 古より此塚ありと云ふ可也

○直指院 直指院と云あり 寛文年中 木食直指院と云

佛を建之 直指院と云あり 寛文年中 木食直指院と云

い他あり 入定を我永く 疲癆を避へしと 鐘起のり

○雉子宮 大禱 白雉山宝塔寺 天台 山王末

廣長の頂沙路の時 雉子宮なり 此の社を言ふと云ふ

○桐谷 空分ニリ ○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○蛇窪 未なり村あり

○ 禪宗佛閣 白銀 目黒

○紫雲山瑞聖寺 黄檗流 白金

開山木菴和尚 寛文手中中道立

○大光山重秀寺 妙心末 白金 ○法正城玄院 白銀末 白金

○常應山長海寺 日末 目黒 ○日出山威徳寺 陽明末 白銀末

○長昌山龍隱寺 生越の宿寺 寺旗百石 白金末

開山岳極和尚 曹洞宗開東僧録云々寺内なり

○普明山西照寺 法皇末 白金

○ 法花宗

○知光山立行寺 系後末 皇身末 白金

寺中 金蓮院 在之跡 ○金池山本如寺 日末 日

○宝来山是林寺 日末 ○瀧渡山如來寺 日末 日

○ 天台宗佛閣 目黒 白浪

○目黒不動 泰叡山竜泉寺 天台 上野末 目黒

開山慈覺大師 本寺別慈覺の作

式人の云當山は往昔日本天皇と云ふ事あり神號もなす
き土民の稱して荒人神といふはあはれなる事なり
本國下野の山あり叡の山と云ふはあはれなる事なり
農氏移りて云ふ事あり人神といふ日本天皇の事なり
神像を彫刻し神尊といふはあはれなる事なり
不動の像を仰り開陣の如くあり是れ日本天皇の
御影の如くありあはれなる事なり
兼多の如くありあはれなる事なり
凶徒等の如くありあはれなる事なり
是れ天のひかり雲の如くありあはれなる事なり
洞を切てありあはれなる事なり

火燭入つて山徒の...
を天の...
不勤の...
當山不勤...

兼和五年に八唐...
貞觀六年正月十六日...
元和二年のま...

と...
△独沽の滝

大野と...
なり原山との...
振難と...

△雁鳥居松 又腰掛松 又白松丸 石壇の下にあり
寛永の...
ありしと...
の...
陸奥深おたり

○浄土宗併同

白金 目黒

○増上寺退院ノ地

増上寺下ノ一ノ一

一本松

○祇園西光寺

賀末

○九徳山善長寺

増上末

カキ

○浄忍山源寺

増上末

○佛性山戒法寺

日末

日

○宝蓮山光教寺

日末

○知是山福寺

日末

日

○又雲山蟠竜寺

日末

○選釈山寂光寺

日末

日

○金花山清岸寺

日末

○極善山寂上寺

日末

日

○明願山祐天寺善長院

中目黒

下目黒不空堂

○用山大僧正祐天和尚

宇保年中二世祐海和尚起立

○祐天和尚御新

三輪利經

茶毘の申しの

○用山麻下

たりの方林の心 庵更日毎に掃きしつゝ是女ありて

僧正在世の時日毎に掃きしつゝ是女ありて

於てとて其日毎に掃きしつゝ是女ありて

○碑文谷

天台

妙光山法華寺

寺從十九石

上野末

○用山日原上人

仁王安河外

新也堂

飛障の内に建堂云

忠玄法師大それたはるの碑の文を記して埋しありて

○新田大明神

佐原郡 矢口

○新田義興乃靈社

中一の後の廟あり

○新田徳壽丸義貞乃男なり吉野の天皇その云

武元強念のいふは義興切あり基氏強念あり

我後のいふは義興のいふは強念のいふは

いふは強念のいふは強念のいふは

者あり今おまを

者あり今おまを

者あり今おまを

江州府志 卷之五
 延元三年九月
 義興無咄々自殺し水の中に入つた。延元三年九月、
 義興、江州府に於て種々の患害あり、その序におもひ、
 矢口の大旱りよむる。迅雷疾風あり、水くわん、
 遠近を大なるおそれ、石をくわん、義興、甲冑を常し、
 白馬にのり、雲中におり、遠近を射たらし、
 その後七日、自ら足をとく、水の中をたぐひ、
 義興、徳鬼を率ゝ、入河川、
 基氏の陣、入つた、
 百餘、百餘、雷大なる、
 死す、又、
 人民、
 義興、
 五之巻軸

